

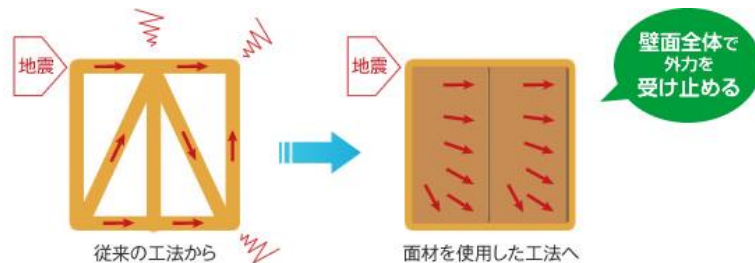
# 木造ハイブリット工法

在来工法と2×4工法のいいとこ取りで丈夫な家をつくります。

地震や台風に負けない強度と、耐震性・耐久性の高さを追及しています。

## 構造強度を高め、地震に強い住まいを

- 土台、柱、横架材を、構造用ハイベストウッドで一体化し、構造用合板などを利用し剛床とすることで、全体を一つの箱にし、壁面全体で外力を受け止め、すぐれた耐震・耐風性能が得られます。
- 高構造用ハイベストウッドを張りつけた耐力壁は水平力に対して面材のせん断力で抵抗します。
- 面材工法は、壁面全体で地震力・風圧力を受け止め、バランスよく分散し、軸組の接合部への力の集中を緩和します。



## ■ 構造用ハイベストウッドと筋かいの比較

	構造用ハイベストウッド	筋かい
気密性等	すき間が少なく、外気を遮断できるため、気密性を高めやすいです	すき間からの空気もれあり、気密性がよくありません
断熱材の施工	壁の中に筋かいがないため、断熱材を均一に取付けられ施工性も抜群です	筋かいと断熱材が干渉し、特にタスキ掛けの場合、断熱材を均一に取付けることが困難です
剛性	施工が容易で、施工精度が向上し、高い剛性を保てます	施工精度や性能の差がでやすく、精度が悪いと、特に筋かい両端部がガタつきやすく、剛性が低くなります
方向性	あらゆる方向の力に対し均等に効き、面全体で受け止めるため、力が分散し、一部に負担がかかりにくくなります	圧縮方向、引張方向と強度の発現に方向性があります
粘り強さ	大量の釘が抵抗するため、大きな力がかかってもし変形しづらく、粘り強くなります	大きな力がかかると、筋かいが折れたり、外れたりしやすくなります
イメージ	 力を分散させ、壁面全体で受け止めます	 引き抜けがおこります 筋かいが折れてしまいます